



Since 1983

SSKO

おあしす通信



2025年度
第1号

編集 キープハート（おあしすの事業を支える市民の会）



設立40周年記念 映画「生きて、生きて、生きろ。」チャリティー上映会を開催



社会福祉法人

おあしす福祉会

〒136-0076 東京都江東区南砂3-4-6

TEL：03-5690-5959

<https://www.oasisfukushi.or.jp/>



就労継続支援B型／就労定着支援事業所

■オアシス・プラス 〒135-0021 東京都江東区白河4-7-2 TEL 03-5646-7811

就労継続支援B型事業所

■コム・オアシス 〒136-0076 東京都江東区南砂3-4-6 TEL 03-5690-5959

■ピアワーク・オアシス 〒135-0001 東京都江東区毛利1-7-3 TEL 03-5638-1775

地域活動支援センター／指定（特定・一般）相談支援事業所／自立生活援助

■ウィル・オアシス 〒135-0002 東京都江東区住吉1-17-20住吉ビル4階 TEL 03-6284-0545

共同生活援助事業（グループホーム）

■第2クローバーハウス

おあしす利用者家族の会「杏の会」

公益事業

■住宅確保要配慮者居住支援法人（居住支援法人）

〒136-0073 東京都江東区北砂1-5-20東陽町ダイヤモンドパレス2階204 TEL 070-6435-5374

絶望の中、生きようとする人々を見つめて

おあしす創立40周年記念チャリティー上映会開催

映画「生きて、生きて、生きろ。」は東日本大震災と福島第一原発事故から13年が経った福島県を舞台に、喪失と絶望に打ちのめされながらも、日々を生きようとする人々と、彼らを支える医療従事者たちの姿をとらえたドキュメンタリーです。

おあしす福祉会（以下、おあしす）は2024年で創立40周年を迎えました。その記念として、チャリティー上映会を開催し、地域の皆さまをご招待することにしました。そして、この映画と一緒に観ながら、あらためて被災した方々に思いをはせつつ、私たち自身の活動も振り返りたい、と考えました。



被災地支援活動

おあしすは2011年の東日本大震災以来、被災した方々に向けて様々な支援活動を、利用者とともにこなってきた。日本中が大きな不安と混乱の中にいた当時、被災地の支援活動を見聞きした利用者から「私たちにも何かできないか」という声があがったのがきっかけで、この活動は始まった。「誰かの役に立ちたい」という思いに共感した多くの人たちに支えられながら、14年にわたり私たちはこの活動を大切にしてきた。

会場には東北の製品の販売コーナーも

当日、会場内には岩手県宮古市や福島県南相馬市の障害者支援施設の製品を販売するコーナーも設けた。

これらの製品はおあしすが支援活動をおこなってきた中で知り合った施設の皆さんが作ったものだ。隣には2024年の日本精神リハビリテーション学会で発表した「東日本大震災の被災児童から小児がん患児まで～木のおもちゃを贈る活動を通してかけがえのない役割を果たす～」のポスターも展示した。



蟻塚亮二医師の特別インタビュー

映画に出演している蟻塚亮二医師とおあしす福祉会は長いお付き合いをさせていただいている。おあしす30周年の際には記念講演もしていただいた。

上映会当日は診療の予定があり会場にはお越しいただけなかったが、上映前夜のオンラインでのインタビューに快く応じてくれた。インタビュー動画は特典映像として映画本編の前に上映をおこなった。



蟻塚医師のインタビューより（一部抜粋）

Q：患者と接する時に心がけていることは？

A：私のところに来る人はトラウマを負ったり、子どもの頃に虐待を受けた人が多い。ともかくリスペクトをすることですね。そんなトラウマを抱えて、何度も首を吊って、何度も失敗して、って人もいますよ。そんな人を見ると、死なないで、よくここまで生きてくれて、ありがとうって（思う）。そんな風に生きてきた人ってすごいなあ、って思っって一生懸命尊敬する。それが基本かなって思います。

Q：患者とよくハイタッチすると聞いているが？

A：高齢の方などは耳が遠いなどあるので、なるべくスキンシップを増やすようにしている。膝や肩をトントンと叩くとか。トラウマを抱えた人たちがようやくここにたどり着いた！って、私はとにかくよく頑張っ

て生きてきた！ってこと。今、生きていることに価値を置く。目の前に私がいて、あなたがいる。「今、ここで」という現実を分かち合おう、シェアしよう！それを強調するためにハイタッチするんです。

Q：今の福島の人たちについてどう思うか？

A：（東日本大震災と原発事故で）被災した人たちは3.11が近づくと具合が悪くなる人が多いんです。それから「原発再稼働」なんて方針を政府が出したり、最高裁が東京電力に原発事故の責任はない、なんて判決が出たりすると、「社会に見捨てられた」という感じになるんです。

原発事故も辛かったが、その後生きるのはもっと辛かった。浜通りでは、原発事故が起きるまでは一人ひとりがみんな未来を持っていた。「あと10年、15年経ったら息子のところに嫁が来て、孫が見られるかな」という行程表がみんな吹っ飛んだ。

自分たちが生きてきたことを頭から否定される。そういうことがあまりにも多すぎる。それが原発事故後の14年だと思います。



= 来場者から寄せられた感想より =

●映画に登場された方たちの表情や回復されていく姿、先生や看護師さん、職員の皆さまの姿がとても印象的でした。寄り添うこと、一緒に何かすること、利用者の強みを活かしていくこと、沢山のことを学んだ映画でした。

●とても辛かった。知っているつもりでも知らないことに気づいた。“復興”って何だろう…とても考えさせられた上映会だった。

●「思いもよらないショッキングな出来事」が起きた際に誰かを恨み、自暴自棄になり、何もかも投げ出したくなり、ただ受け止めて生きていくしかないという腹を括り、行動に移している間に少しずつ、忘れていた希望が顔を出す。地震や津波ではないですが、同じよう

な過程を経たことがあったので、共感とともに「ああ、がんばろう」と素直に思えました。素晴らしい作品をありがとうございました。

●戦争、原発、基地、色々なことをきっかけとして大変な思いをされている方が今でもいるんだということを思い知らされました。そんななかで心ある活動をされている方々の想いに、とても感動いたしました。

●蟻塚先生のビデオメッセージもとてもよかったです。トラウマケアについて勉強をすすめているところです。ありがとうございました。これからの福島を追い続けたいと思いました。

●3.11に東北の作業所さんの商品を置いていただき、現地の方々と少しでも交流できた気持ちになることができて嬉しかったです。

今回の上映会は平日夜の開催、ご案内が直前だったにもかかわらず、100名を超える皆さまにお越しいただきました。東日本大震災と福島第一原発事故のその後、大きな絶望を抱えながらも、生きようとする人の姿をともに観て、考えることができ、嬉しく思います。

会場内に設置した募金箱にいただいた支援金・寄付金は合計で34,066円となりました。たくさんのご寄付ありがとうございます。お預かりしたお金はそれぞれの関係団体に送り、今後の活動に役立てていただきます。

おあしす福祉会は東日本大震災以降、地域の皆さまとともに被災した各地域の支援を続け、障がいがある方々と被災した地域の方々との相互の回復（リカヴァリー）に大きな効果をあげてきました。今年度は能登半島地震で被災した輪島市、珠洲市の皆さんとの交流も始めております。

これからも皆さまと、よりよい地域づくりをしていきたいと考えております。ぜひともご協力をお願いいたします。

（武藤 康司）

おあしす福祉会 令和6年度事業報告 令和7年度事業計画【概要】

1. 令和6年度（2024年度）事業報告

経営基盤の安定化と地域連携の拡大

【主な実績と成果】

□財務・経営：法人全体で前年比約2,780万円の増収および日本政策金融公庫等からの資金融資も頂くことができ、経営基盤の安定化を図れました。これは報酬改定による仕組みの変更と前年度の工賃や就労支援実績により就労継続支援B型が収益を牽引しました。また、処遇改善加算、東京都居住支援特別手当等により職員の賃上げを実施することができました。

□組織・施設：就労定着支援については令和6年4月から、ピアワーク・オアシスからオアシス・プラスに事業を引き継ぎました。

「TOKYO働きやすい福祉の職場宣言」を達成し、採用面での優位性を確保しました。また、「感染症蔓延防止委員会」発足など危機管理体制を強化し、BCP（事業継続計画）の訓練や強化を行いました。

□地域連携：被災地支援を継続し、新たに能登への応援を開始しました。また多数の企業・団体と新規で連携し、利用者の就労機会を大幅に拡大することができました。また政策提言の成果としては、江東区議会への陳情をおこない、令和7年度予算で「被保護者金銭管理支援事業」の新設が実現できました。

【課題】

「施設の老朽化対策（移転・大規模修繕計画）」が具体化できず、次年度へ最重要課題として繰り越すこととなりました。

2. 令和7年度（2025年度）事業計画

『施設から地域へ』の真の実現と施設再編

令和7年度は、「施設から地域へ」の真の実現と共生社会の確立を目標に、以下の重点施策を推進します。

□地域連携・公益：居住支援法人として、高齢者を含む幅広い対象への支援を強化し、居住サポート住宅の実現を推進。フードドライブなど、社会課題に貢献できる公益事業の開拓・発展を目指します。

□施設再編・整備：「脱施設化」「高齢化・重度化」に対応するため、全事業の再編や統廃合を検討していきます。南砂エリアの施設（コム、第2クローバーハウス）の移転計画を立案・推進し、施設整備を具体化していきます。

□組織・人材：持続可能な給与表・規程へ改訂し、初任給の引き上げやキャリアパスの整備を実現します。BCP（事業継続計画）の運用訓練の定例化、業務規程の整備を進めます。

【まとめ】

令和6年度の増収と地域連携の成果を土台に、令和7年度は、長年の課題である老朽施設の再編・移転を最優先で具体化しつつ、居住支援や公益事業を強化することで「施設から地域へ」の理念を達成し、共生社会の実現を目指していきます。今後とも読者のみなさまからのご支援ご協力よろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人おあしす福祉会

理事長 平松 謙一

おあしす福祉会の事業活動にご協力ください

おあしす福祉会は令和7年度で創立42年目となります。「精神障害があっても地域のなかでかけがえのない存在として尊重され、自己実現を目指すことのできる地域を作る」ことを大切な理念の1つとし運営を行ってきました。

いまでも、これからもこの理念を掲げ、事業活動を通じて、地域にも貢献できるよう尽力してまいります。引き続き、おあしす福祉会へのご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

おあしす福祉会への
寄付についてはこちら➡



郵便振替によるご寄付の場合

加入者名 おあしす福祉会

口座番号 00100 8 番号 82367

通信欄に「寄付」と明記のうえ、お申し込みください

「リサイクルショップオアシス」に品物をご提供ください！

コム・オアシス（就労継続支援B型事業所）は北砂3丁目で「リサイクルショップオアシス」を運営しています。ご家庭にまだ使える不要品がございましたら、「リサイクルショップオアシス」にご提供ください。

また、地域貢献の1つとしてフードドライブの活動にも取り組んでいます。フードドライブへの食品提供も大歓迎です。ご提供方法やご提供品の詳細は同封のチラシをご参照ください。

リサイクルショップオアシス
の最新情報はこちら➡



皆さまのご協力をお待ちしております！